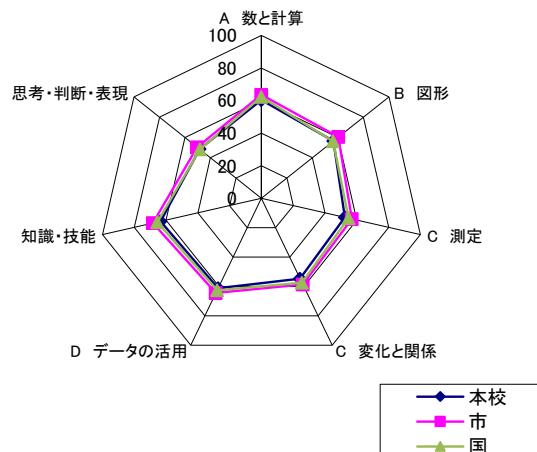


宇都宮市立豊郷南小学校 第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、国と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	A 数と計算	60.4	63.6	62.3
	B 図形	56.4	60.4	56.2
	C 測定	52.5	56.9	54.8
	C 変化と関係	54.6	58.6	57.5
	D データの活用	61.2	64.4	62.6
観点	知識・技能	63.5	68.3	65.5
	思考・判断・表現	48.5	50.4	48.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、60.4%と市や国の正答率を下回っている。 示された資料から情報を選び、数量の関係を式に表し、計算する問題においては、資料から必要な情報を抜き出し、立式していく練習の効果が現れていると考えられる。 それぞれの分数を通分する方法の確認を行い、計算の仕方の定着に努める。 	
B 図形	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、56.4%と県の正答率を下回っているが、国の正答率は上回っている。 基本图形に分割することができる图形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述する問題において、国の平均の正答率を3.2ポイント上回っている。 台形の意味や性質についての問題では、国の正 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な形の图形問題を繰り返し指導してきたことが効果に表れていると考えられる。 様々な形の图形から台形を選べるように、台形の意味や性質の確認を行う。
C 測定	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、54.6%と市や国の正答率を下回っている。 はかりの目盛りを読むことができる問題では、国の正答率は0.4ポイント下回っているが、県の正答率は0.4ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 実物のはかりを用いてグループで目盛りを読む活動などの効果が現れていると考えられる。
C 変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、52.5%と市や国の正答率を下回っている。 問題を解決するために必要な数量を見いだし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述する問題では、国の正答率を4.6ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題文中から、知りたい数量に対して必要な数値や情報を見つけることができるよう、難易度の低い問題で練習し慣れていくようにする。
D データの活用	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、61.2%と市や国の正答率を下回っている。 簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶ問題では、国の平均を2ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題文やグラフの中から、必要な数値を的確に読み取ることができるようとする。